

日本における国民教育の歴史～日本国民国家の国民教育

(というタイトルになっているけれど、実際は、現場から見た国民教育論の悲哀、
とでも言うべきものか?！)

2002.7.13 竹林 隆

私の問題意識

- ・ 全共闘運動
 < 大学解体 > < 産学協同路線粉碎 >
 - ・ 中教審答申「期待される人間像」
 < ハイタレント・マンパワーの創出 > ~ 大学生って何やねん? ~
 - ・ 伝習館高校闘争
 単位・評価権の解体
 指導要領 = < 国民の教育 > に対する闘い
 - ・ 部落解放運動との関わり
 < 矢田教育差別事件 > とは何だったのか? ~ 労働条件と解放運動
 < 被差別統一戦線 > と国民教育論
 - ・ 教員になって最初に出会った国民教育論
 「教師と父母が手をつないで子どもと教育を守ろう!」
 - ・ 解放教育との出会い
 教組運動より解放教育の方が魅力的?
 - ・ 「日の丸・君が代」反対闘争
 問題意識の変遷 ~ < 侵略戦争のシンボル > から < 国家統合のシンボル > へ
 - ・ 国家と私
 < 日本人 > であることがたまらなくイヤになりはじめたころ
 在日朝鮮人の友人の存在
 天皇はイヤや!
- < 国民教育論 > とはなんぞや?

・戦前期の国家主義教育

学制発布(1872年)以降の学校における国民教育の内容

とりわけ、学校行事を通しての臣民(旧憲法下における国民国家の一員)創出

卒業式、入学式、修学旅行

三大節祝賀式、奉読式 etc .

帝国主義国家としての国民国家形成

教育勅語、軍人勅諭

日本民族にとっての・他民族同化のための国民教育

「五族協和」「東亜新秩序」「八紘一宇」

「心の中に空洞感のあった当時の人々にとって、大政翼賛会の中で活動することは、心の中がえもいえぬ充足感で満たされ、自分の存在というものを実感できる唯一の機会であった」(桑原重夫)[かつての同氏の講演会で報告者が聞いた内容の一部分の大意]

* 戦前期の教育労働運動、綴り方教育運動などは、国家権力とどれほどの距離感をもっていたのか？

・「戦後民主主義」と国民教育論

<戦前>と<戦後>で何が変わり、何が変わらなかったか？

戦後民主主義教育 = 憲法・教育基本法に依拠した国民教育

日本の国家・社会をになう国民の育成

この中から教育運動としての国民教育運動の登場

勝田守一、清水幾太郎、宮原誠一、宗像誠也など(「民主・国民教育論」)

<国民教育は憲法に見出される自由・平等・平和の普遍的価値ないし理想によって貫かれていなければならない>(清水幾太郎)

矢川徳光(「民主・民族教育論」)

<教育が奉仕すべきものは民族> <封鎖的、排外的な民族主義教育ではなく、国際主義と結合する民族主義的教育が必要である>

上原専祿(日教組国民教育研究所運営委員長)

<「民族」の問題と「階級」の問題を同時かつ統一的に担いうる緊密な民族集団としての「日本国民」を育成する国民教育>

* 「戦後歴史学と『自由主義史観』との通底」(川本隆史)

「『自由主義史観』は私たちが依拠してきた歴史観とまったく別の世界で通用しているだけの妄想なのか」(太田昌国)

「(上原専祿の『日本国民の世界史』と西尾幹二の『国民の歴史』とを机上に並べて)
理想は四〇年の後に、このような扱われた形でしか実現しえないものであろうか」
(西川長夫)

日教組運動と国民教育

「国民の教育権論」

教員と生徒・保護者の関係は？

社会党系・共産党系どちらも「同じ穴のムジナ」

「発達保障論」批判

国民教育論への批判

持田栄一

階級教育論からの批判

60年代後半以後の公教育批判

[教える - 教えられる]関係への異議申し立て

解放教育も結局は・・・

現在の学校現場

・ <教育>は善なのか？

学校行事

週休2日制

「不登校」生徒の増大

教員の思い込み

・ 新たな国民統合の国家主義教育

「日の丸・君が代」

「心のノート」

新指導要領

職員管理 - 生徒管理 - 保護者管理

・ 国民国家の解体に向けて